

神奈川県立衛生看護専門学校  
令和5（2023）年度 学校評価報告書

重点目標：1. 令和5年度カリキュラムを円滑に運営する。/ 旧カリキュラムで入学した学生の単位修得における不利益を生じさせない（看護学科）

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
—	看護学科	<p>・旧カリキュラム対象学生に対し、不利益が生じないよう補講対象科目の単位修得に向け支援を行った。また新カリキュラムへの読み替え科目は、読み替え表を作成し確実に科目を受講することができた。</p> <p>&lt;補講科目名および受講学生数&gt; 家族社会学（2名）、総合治療論（1名）、成人看護学総論Ⅱ（8名）、小児看護学方法論Ⅰ（2名）、成人看護実践論Ⅰ（14名）、老年看護実践論Ⅲ（16名）：計6科目</p> <p>・成人看護実践論Ⅰに関しては、事前に成人担当教員による実習対策ゼミを行った。また、通常、学生5名に対し教員1名の配置のところを学生3名に対し教員1名の配置とした。さらに引率教員は専門性の高い成人看護領域担当教員が担当し丁寧な指導を行った結果14名中12名が合格することができた。</p> <p>・新カリキュラムで読み替え可能である科目については滞りなく受講し単位修得試験を受けることができた。</p>	<p>・2年次の6科目の補講科目に関しては、成人看護実践論Ⅱを除く5科目は、全員が修得することができた。</p> <p>・新カリキュラムへの読み替えは、科目読み替え表を作成したことで滞りなく受講することができた。</p> <p>・カリキュラムの運営に関しては、補講科目の計画・実施を滞りなく行えた。</p>	<p>・読み替え科目については、読み替え表に基づき、科目担当教員が履修科目の漏れがないことを複数回確認したことで、科目の受講及び単位の修得に至ったと評価する。</p> <p>・旧カリキュラム学生にとって不利益を生じさせない運営だったと評価する。</p>	<p>・旧カリキュラム対象学生に対し、未修得科目のカリキュラムの読み替えや、補修講義や補講実習を漏れなく行ったことは大変評価できる。</p>	<p>・次年度は、新カリキュラムに移行した学年が3年生となるため、それ以前の回生で3年次に在籍した学生は、旧カリキュラムとなる。したがってそれに伴い3科目が補講対象となる。</p> <p>①母性看護学方法論Ⅲ ②成人看護方法論Ⅶ ③成人看護実践論Ⅱ</p> <p>・昨年度と同様、対象学生にとって不利益が生じないようカリキュラムの調整を行っていく。</p> <p>・また、今年度に単位未修得となった成人看護実践論Ⅱの学生においても引き続き補講実習を計画する。</p>

神奈川県立衛生看護専門学校  
令和5（2023）年度 学校評価報告書

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
—	助産師学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラム2年目であり、5月以降、新型コロナウイルス感染症が5類に移行後も、計画通り、学内授業、臨地実習とも滞りなく実施した。</li> <li>・臨地実習では、前年度と同様に病院・助産院と細やかな調整を行って実習に臨んだ。年度末に病院実習施設の指導者に参集いただき、臨床指導者会議を実施した。「コロナ禍で看護基礎教育を受けてきた学生への効果的な指導について」のテーマで、グループワークを行ない、意見や学生観を共有した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・58回生26名中、25名はすべて単位修得し卒業した。</li> <li>・26名全員が臨地実習で9件以上の分娩介助を経験した。</li> <li>・カリキュラム運営は円滑に行えたと判断する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床指導者会議に於いて、「学生の特徴を教えてほしい。記録が多い。時代に合っていない。」「自分たち（臨床）の考え、どういことを求めているか学生に伝える努力が必要。」等、ご意見をいただいた。細やかな調整に努めたが、臨床と教員は、さらに学生指導に対する伝達・共有を密に行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習記録に関して、現在、手書きのみを認めているが、手書き以外の方法を探ることや、実習記録の簡素化など工夫したらどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム運営は継続して取り組む</li> <li>・科目履修生に対する学習および精神的支援を実施し、卒業、国家試験合格をめざす。</li> <li>・助産学実習は、病院・助産院と連携を密に行い、分娩介助10件をめざす。（継続）また学生指導にあたり、臨床と学生のレディネスを共有しつつ、指導者と教員間の「学生観」「指導方法」を共有し、学生の成長を支援するよう努める。実習記録の一部見直しを行う。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校  
令和5（2023）年度 学校評価報告書

重点目標：2. 令和6年度入学生を確保する（看護学科）

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
広 報	看護学科 管 理 課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験生の入試情報の収集先は、ホームページが主であることから、広報委員会で検討を重ね、教務部ホームページを全面的にリニューアルした。県ホームページは、教務部ホームページとの連携を強化するとともに、各掲載項目をより分かりやすく改善した。</li> <li>・学校紹介パンフレットを刷新し、ホームページにも掲載した。</li> <li>・看護学科志望の生徒向けの令和6年度入試情報を掲載したちらしを新たに作成し、受験生に周知した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学科全体の受験者数 158 名(前年度 110 名)、入学者数 102 名(前年度 79 名) で 23 名増となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に比べると受験者数が 29%増加していることから、学生確保のための広報活動は効果的だったと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの改善、少人数見学会の実施、学校説明会での模擬授業の工夫、AO入試の導入など、入学者確保に向けて数多くの取組を行い、入学者増につながったことは評価できる。</li> <li>・受験生の利便性を考えたときに、インターネット出願を検討してもよいのではないか。</li> <li>・ブログやSNSによる発信を導入し、頻回に更新することで、改善したホームページを継続的に見てもらうことを検討したらどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も、引き続き、広報活動は本校と受験生の対話の手段であることを認識し、提供する情報は常に最新のものとし、受験生にわかりやすい広報を行う。</li> <li>・令和8年度入試(令和7年度実施)に向行けて、インターネット出願の検討を行う。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校  
令和5（2023）年度 学校評価報告書

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
説明会等	看護学科 管理課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月開催の高校の進路担当教員等向け学校説明会では、参加校の卒業生との懇談を行うなど内容の充実を図った。</li> <li>・令和5年度は早い段階（6月）から学校説明会を実施し、在校生とのフリーターキングを行うなど内容の充実を図った。</li> <li>・学校説明会は、在校生との懇談を重要視し、学生からの生の声を聴いてもらうことで学校生活のイメージ化を図るため、模擬授業や技術演習を実施した。また、保護者に対しては、参加学生とは別室で教員との座談会を設け、質疑に対して詳細に説明を行った。</li> <li>・担当教員によりオンラインで説明を行う個別説明会を新たに実施した。</li> <li>・教育担当副校長による少人数見学会、Zoom説明会を実施し、在校生との懇談の時間を設けるなどの工夫を行った。</li> <li>・令和5年度初めて、県教育委員会主催のインターンシップ受入れ事業で、高校生を受入れ、模擬授業を企画・実施した。（13名参加）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路担当教員等向け学校説明会の参加校は23校（前年度25校）であった。</li> <li>・学校説明会は、6月、8月、9月に合計5日で10回開催し、232名の参加があった。</li> <li>・担当教員によるオンライン個別説明会は26回、教育担当副校長による少人数説明会は31回、Zoom説明会は令和5年度初めての開催で、17回実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に比べると受験者数が29%増加していることから、学生確保のための説明会等は効果的だったと考える。</li> <li>・模擬授業では、看護技術や参加型学習を体験してもらうことで、高校生に興味を持ってもらうことができた。</li> <li>・高校生対象のインターンシップ受入れ事業では、高校生が興味を持って取り組むことができ、入学者増に寄与したと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な入学者確保の取組により「定員の充足率」が改善したことは評価できる。今後は、より多くの受験者の中から入学者を選抜できるよう「競争率」を上げる努力をしてほしい。</li> <li>・模擬授業等で、学習のイメージをもってもらえることは、ミスマッチを防ぐことにつながり、よい取組であると評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の進路担当教員等向け学校説明会は、高校の教員が参加しやすいよう2回実施する。</li> <li>・前年度に引き続き、学校訪問・オープンキャンパス・少人数相談会等を実施する。</li> <li>・次年度は、より早く本校を知ってもらうため4月よりオープンキャンパスを実施する。</li> <li>・高校生対象のインターンシップ受入れ事業等においては、単に授業等を見学するのではなく、実際に参加してもらうなど、興味が沸くような取組とする。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校  
令和5（2023）年度 学校評価報告書

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
入試改善	看護学科 管理課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月の輝翔祭（文化祭）において、学科説明や相談ブースを設置して希望者に対応した。</li> <li>・校長、教育担当副校長が県内高校を訪問し、進路担当教員等に本校をPRした。</li> <li>・AO入試を新たに導入し、アドミッションポリシー（入学者の受入れ方針）に適合する人物重視の入学者の確保に努めた。</li> <li>・推薦入試については、前年度入試と同様に実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内高校を29校訪問した。</li> <li>・AO入試は、受験者数63名、入学者数42名であった。</li> <li>・指定校推薦入試は、受験者数・入学者数は33名（前年度34名）、公募推薦入試の受験者数・入学者数は8名（前年度4名）であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AO入学試験の実施が入学者増に大きく寄与した。</li> <li>・指定校推薦入試受験者数・入学者数は、募集人員（定員120人の40%程度（48名程度））、公募推薦入試の受験者数・合格者数は、募集人員（定員120人の10%程度（12名程度））に満たなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型選抜（旧AO入試）では、高校で取り組んだ探求学習の成果や、ポートフォリオ（例えば受験者の高校3年間の取組・実績の積み重ねをまとめたもの）を取り入れるなどの工夫を検討していてもよいのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度と同様に、輝翔祭（文化祭）でも学科紹介・相談コーナーを設ける。</li> <li>・AO入試は、総合型選抜に名称を変更し次年度も実施する。</li> <li>・AO入試については、現在のアドミッションポリシーを題材にした試験により入学した学生の状況を分析し、選抜方法を検討する。</li> <li>・推薦入試については令和7（2025）年度入試に向けて、受験資格を見直した。（令和6（2024）年度入試「全体の評定平均値3.5以上かつ国語・数学・理科の平均値がそれぞれ3.5以上」→令和7（2025）年度入試「全体の評定平均値3.5以上かつ国</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校  
令和5（2023）年度 学校評価報告書

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
入試改善	助産師学科 管理課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度入試に向けて、一般入試(国語、数学)の試験問題作成にあたり、看護師としてふさわしい学力を身に付けているかを測る観点から、学内のスタディーサポートチームと連携して試験内容の検討を行った。</li> <li>・助産師を希望する高校生に対し、本校の看護学科に入学することのメリットを学校説明会等で強くアピールした。</li> <li>・助産師学科では学内公募の制度があるにもかかわらず、令和5年度入試では出願者がゼロであったことから、令和6年度入試では、受験資格を見直した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内公募の受験資格を見直した結果、募集人員が定員40人の20%(8人)程度のところ、6人(前年度0人)が入学した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産師に興味を持つ学生が受験したことも入学者の増につながったと一定の評価ができる。</li> <li>・学内公募の出願があったことで、県内唯一の助産師学科が併設された専門学校であり、最短で助産師になることができることをより強くアピールできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産師学科の学内公募で、6人入学したことは評価できる。</li> </ul>	<p>語・数学・理科の平均値がそれぞれ <u>3.3以上</u>」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験生が受験しやすく、かつ、看護師としてふさわしい学力が測れるよう、試験内容を見直し、試験問題作成する。</li> <li>・次年度は、助産師学科進学を希望する入学者を対象に学内説明会を開催する。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校  
令和5（2023）年度 学校評価報告書

重点目標：3. 実習施設を確保する（助産師学科）

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
—	助産師学科	<p>・次年度の臨地実習施設を確保するため、コロナ禍以前に助産学実習を受け入れていただいていた2施設に申し入れを行った。</p> <p>【施設A】コロナ禍のため4年間受入れが中止されていたが、指導態勢が整えられたため、実習受け入れ再開の承諾を得た。しかし分娩件数の減少に伴い、実習生2名の受入れとなった。</p> <p>【施設B】9年前にスタッフの育成を理由に、実習受け入れ中止となっていた。分娩件数は少ないが、実習生2名の受入れの承諾を得た。「実習開始早々、24時間待機を行い、継続事例実習は助産院で行う」という条件で再開となった。</p>	<p>・入学生確保のためには、実習受け入れ施設の確保が必須であり、新たに2施設を確保したことから、目標を達成できた。</p>	<p>・今年度は12施設（26名）で臨地実習を行った。</p> <p>・次年度に向けては、病院1施設（2名）の受入れが令和5（2023）年度限りと通知されていたため、他施設に受け入れ再開を打診したところ、2施設（4名）の受け入れの承諾を得た。これにより、28名の入学生確保が可能となった。</p>	<p>・出生数が減っている中で、助産師学科の実習施設を確保することは難しかったと思うが、粘り強く働きかけことで、受入人数が増えたことは評価できる。</p> <p>・実習施設以外の施設に多くの卒業生が就職しているが、実習の受入れ先を増やすため、実習施設への就職を増やしたらどうか。</p>	<p>・次年度は、病院13施設、助産院10施設（28名）での実習を計画している。</p> <p>・令和7（2025）年度は、現時点では、1施設（2名）減少し、病院12施設、助産院10施設（計26名）を見込んでいる。</p> <p>・効果的な指導を実施するためにも、施設数を増やすより、1施設での受け入れ人数を増員していただけないか依頼していく。</p>

その他の取組に関する評価

<p>【学習環境の整備】</p> <p>・Wi-Fiがないのは、大雨の時に傘がないに等しい。教員が学生に向けてタブレット端末用に資料をアップロードしても、学内でダウンロードすると、Wi-Fiがないため通信料がかかる。そのため、教員は資料を前日までにアップロードし、学生は自宅のWi-Fiでダウンロードしている。当日に対応できない不便さだけでなく、Wi-Fiがあれば、様々なシステムを使った授業も可能になる。早急な整備が必要だ。</p> <p>・校内の模擬テスト等でマークシート又は教育向けコミュニケーションアプリを使うことで、瞬時に学生の回答が分析でき、集計できる。費用はかかるが、すぐにはなくとも、学習効果が高く、教員の負担軽減につながることから、導入を検討したらどうか。</p> <p>【学習支援】</p> <p>・基礎学力に不安のある看護学科の学生を支援するスタディーサポートチームを令和5年度に発足させ、基礎学力の習得を図るとともに、国家試験合格率100%に導いたことは評価できる。学生の学力を短期間に飛躍的に向上させることは難しいと思うが、そのような学習支援制度を必要としている学生は存在するので、スタディーサポートチームの行ってきた取組を充実・継続してほしい。</p> <p>・多重課題ができない学生、学力に不安のある学生に対し、ミスマッチを防ぐためにも、入試での見極めや、学校教育の中での対応ができないか。</p>
--